

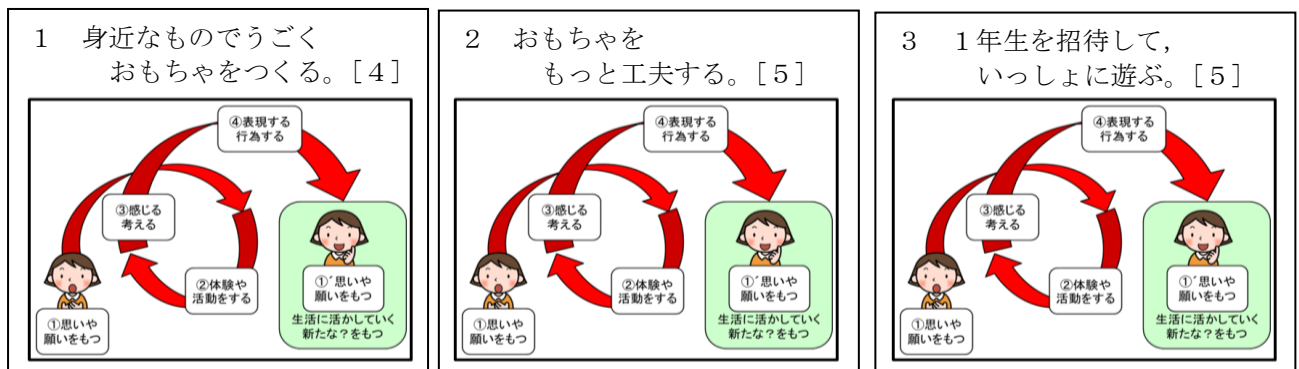
第2学年2組 生活科学習指導案

1. 単元名 「うごく うごく わたしのおもちゃ」

2. 指導観

- 本学級の子どもは、「去年の2年生に招待してもらったように、楽しいおもちゃをつくりたい。」という思いや願いをもっている。活動や体験についての思考・表現の能力については、試しながら作り直そうとする姿は見られるが、比較しながら主体的に工夫するまでは至っていない。
- 本単元は、学習指導要領の内容(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。本単元は、身近にある物や自然を利用しておもちゃをつくる過程で、「比べる」「繰り返す」「試す」などの活動から、動くおもちゃの面白さや不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを楽しむことができるようにすることをねらいとしている。
- 指導に当たっては、次のような手立てをとる。

【着眼1】 試行錯誤や繰り返す活動を組み入れた学習展開の工夫



【着眼2】 伝え合う活動の工夫

身近な生活に関わる見方・考え方を生かすことができるように、「見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する」などを意識して伝え合う学習活動を重視する。具体的には、キーワードとして掲示したり、よい発言を価値付けて全体に広げたりする。

また、相手意識・目的意識をもって伝え合う活動を充実させることができるように、ペアや少人数での活動やヒントコーナーの場の設定、ICTの活用などを行う。

【着眼3】 学習評価の工夫

子どもの観点別の状況を見取ることができるように、ワークシートを活用する。ワークシートには、「こんなおもちゃをつくりたい」という思いや願い、「試してみたい」という思考や工夫、「分かったこと」などの気付きや振り返りを構成要素とする。このワークシートを基に個に応じた評価を生かした指導を行う。

3. 単元の目標

生活への 関心・意欲・態度	○ 身近にあるものを使って遊ぶものをつくり、それを使って主体的に楽しく遊ぼうとする。
活動や体験について の思考・表現	○ 遊びに必要な身近にあるものを集め、動く仕組みや材料、形などに着目して、比べる、試す、作り直すなど試行錯誤を繰り返しながら主体的に工夫しておもちゃをつくること ○ 友達や1年生と楽しく遊ぶことができるように、遊びの場やルール、遊び方などを工夫したり、考えたりすることができる。
身近な環境や自分 についての気付き	○ 身近にある物を利用して動くおもちゃをつかって遊べることや、動くおもちゃの動きの面白さや不思議さに気付く。 ○ 友達と一緒についたり遊んだりする楽しさや、おもちゃを工夫できる自分や友達のよさに気付く。

4. 本時の学習

令和元年 10月4日(金) 第5校時

於:多目的ホール





(1) 主眼

自分のおもちゃで遊ぶ中で、繰り返し試したり、友達と伝え合ったりする活動を通して、よりよく動くおもちゃになるように考え、工夫することができるようにする。

(2) 準備 子ども…つくったおもちゃ など

教師…身近にある物,かるこ,リサイクルばさみ,テープ,付箋,パワーアップカードなど

(3) 展開

主な学習活動・内容	○指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法)
<p>1 前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 本時のめあてをつかむことができるように、前時の学習を振り返る活動を設定する。</p>
<p>めあて もっと、よくうごくように 自分のおもちゃを 工夫しよう。</p>	
<p>2 おもちゃがよりよく動くようにつくりかえ、試し遊びをする。</p> <p> びよんウサギをもっと高く跳べるようにしたいな。ゴムの太さを変えてみようかな。</p> <p> ヨットカーをもっと遠くまで進むようにしたいな。もう少し風があたるところを広げてみようかな。</p> <p> ○○くんのように、とことこカメをもっと遠くまで歩けるようにしたいな。どうやったらいいか、聞いてみよう。</p>	<p>○ 材料やつくり方など、より自分の思いに沿ったおもちゃを工夫することができるように、友達にアドバイスを求めたり、何度も試したりする活動を設ける。</p> <p>○ 「試してみたい」という思考や工夫、「分かったこと」などの気付きをすぐに書き留めることができるように、振り返りカードや付箋を準備し、自由に使えるようにしておく。</p> <p>○ 教師は、気付きの質を高めることができるように、つぶやきやよさを他の子どもに伝えるなどの個別の支援を行う。</p> <p>【安全への配慮】</p> <p>○ 安全に活動することができるように、かるこやリサイクルばさみ等、危険を伴う道具は「道具コーナー」で使うように指導する。また、おもちゃをとばすときは、周りに気をつけたり、試す場所を限定したりするなどの留意をする。</p>
<p>3 工夫したことを伝え合う。</p> <p> ○○くんが、風が当たりやすいようにトレイを貼る向きも考えたらしいと教えてくれたよ。ありがとう。</p> <p> ○○ちゃんのびよんうさぎはすごく跳んでいたよ。ゴムの数に秘密があったんだ。</p>	<p>○ 自分の気付きを確かなものにすることができるように、工夫したこと等について考えたことをパワーアップカードに書くようにする。</p> <p>○ 互いの工夫のよさを見付けることができるように、グループで伝え合う時間を設定し、共通点・相違点を見付け、伝えることができるようにする。</p> <p>【思】よりよく動くおもちゃになるように考え、工夫している。 (発言, 行動観察, 作品分析)</p>
<p>4 本時の活動を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○ 一人の気付きを全体に広げることができるように、工夫したこと、気付いたこと、友達に教えてもらったことなどを実際に動かしながら学級全体で伝え合うようにする。</p>
<p> ○○ちゃんに教えてもらって、ゴムの数を増やしたら、一番高く跳びました。跳ばしてみるから、見てください。</p>	<p> ○○くんのように、電池の大きさを変えると、遠くまでトコトコ走るようになりました。</p> <p> わたしも、○○くに教えてもらって、風があたるところを付ける向きも考えたら前よりも速く走るようになりました。</p>
<p>○ 次の時間はもっとこんな工夫をしたいという意欲を高めることができるように、友達の工夫を聞く場や、ヒントコーナーを活用する場を設定する。</p>	

